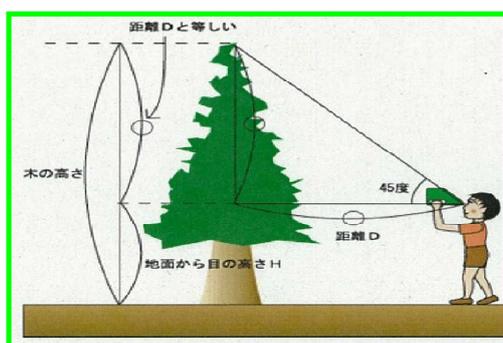
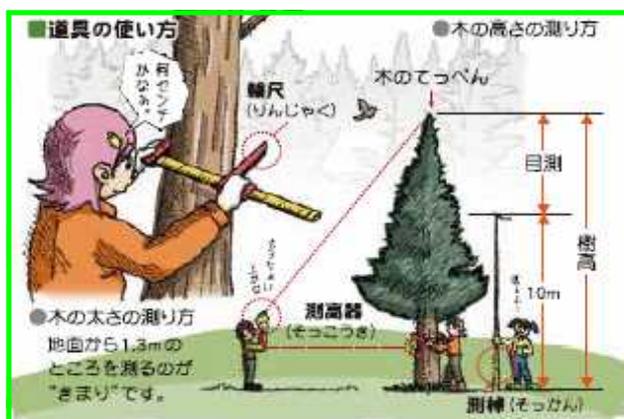


地域のもりから学ぶ森林づくり 2016

「森林の生物多様性を学ぶ」 第二回森林教室

樹木の高さ・太さを測ってみよう

第二回森林教室は、7月7日（木）に定山溪小学校の5年生、6年生を対象として、石狩森林管理署管内定山溪国有林で「樹木の高さ（樹高）・太さ（胸高直径）の測定」と題して、定山溪の身近な森林にある樹木の高さや太さを測定するなど、森林の自然観察を目的に実施しました。



樹木の高さを測定するためにタンジェントハイトゲージを活用、太さを測定するために輪尺を活用して調べることとしました。

まず初めに、タンジェントハイトゲージは、小学校の授業で学習した直角二等辺三角形の二辺の長さが等しいことを活用している機器であることを説明しました。

生徒の皆さんは、初めて見る機器なので戸惑いながらも覗いてみて、なんとなく理解できたような・

・





少し理解できたところで、生徒は3班に分かれて一人一人が森林の中にある木をタンジェントハイトゲージ、巻き尺、輪尺を使って測定してみました。

森林の中では樹木の先端が見えづらかったり、輪尺の目盛りが読みずらかったりと少し苦労していましたが、みんな、初めての経験で楽しく測定することが出来ました。

樹木の測定が終了した後は、遊歩道を活用した森林散策を実施しました。森林散策ではトドマツの大木にクマゲラがエサをとるために掘った跡を見つけ、クマゲラの特徴など森に住む動植物について観察したり、大木の太さを測定する「直径巻尺」を活用した測定を実施しました。



つづいて、カツラの大木を発見し、北海道の代表的な広葉樹であること、カツラは大きく太い木が多いこと、カツラの用途として家具になることについての説明などをしました。

生徒は森林散策に夢中になり、予定時間をオーバーするほど森林を満喫していました。

定山溪の街の周辺には、様々な樹木がたくさんあります。森林の中の樹木には、どのような特徴があり、皆さんの生活にどのように活用されているか考える有意義な森林教室となりました。

今後の日程

○ 7月14日(木)

第3回森林教室

森をつくろう

○ 9月27日(火)

第4回森林教室

森を育てよう

